

いつも「高志の生紙便」をお読み頂き誠にありがとうございます。

併せて「裏生紙便」も御礼申し上げます。皆様の励まし？のお陰でここまですることができました。

さて、「裏生紙便」第17号より門出和紙工房が立ち上げた、3つの委員会の内容と活動報告を兼ねたお話をさせていただきましたが、今回は、「情報、新商品開発委員会」が担当で発行することになりましたのでよろしくお願いいたします。

そもそも、「高志の生紙工房」がオープンしたのが四年半前になります。これを機会に技術の向上はもちろんですが、皆様に「本物の和紙」をもっと知っていただくことが大事だと考えました。まさにその時です。

「門出和紙のホームページ」を立ち上げました。親方は基本的には「アナログ人間」なのですが、今の世の中、情報発信するにはインターネットという「デジタル」も無視できないという考えを持っていました。そこで即実行。構成内容を全部業者さんに任せるのではなく、手作り感を出して自分で内容を更新できるようにしてもらい、デジタルだけど温もりのある正に「アットホームページ」を作りました。立ち上げてから数週間で、「ホームページを見させていただきました。」という電話や商品の問い合わせの電話が多くなったのにはびっくりしました。世間様は良くインターネットを利用しているのだなーと実感しました。

現在、もっと見やすいページになるようにリニューアルを考えていますので来年を楽しみにして下さい。

【新商品開発】

これは、今までうちが苦手としていた分野です。誰もが「和紙はやつぱりいい」と思われるような商品は何か？委員会です。いろいろ話し合いました。その結果、今年生まれたのが「ポチ袋」と「型絵染便箋」どこでもある商品ですが、誰でも手に取りやすい和紙ということで、値段も高からず、安からず、生紙工房2階で発売中。正直申しまして当工房の和紙の小物類は25年前とほとんど変わりありません。

「Simple is best」それはそれでいいのですが、やはり今の時代に合う物を作るのも必要不可欠です。スタッフも増えている。いろいろな人間が門出和紙に関わってくるようになり、「なんとかしなくちゃ」と思いました。

そこで昨年から三つの委員会を設置したことに繋がるのです。それぞれが意見を出し合い、想いを共有し合うことで、門出和紙工房が良くなっていくのではないのでしょうか。（紀久子）



生紙工房2階 ショップ



今年春のきがみ市の販売コーナー（掘り出し物がズラリ）



型絵染便箋 (22×15cm) 型紙を使用して1枚ずつ雪割草の模様を刷り込みました。5枚入 630円



2階 生紙ギャラリー展示風景



強製紙のベストも発売中



ポチ袋 (5枚入) たとう紙付 ポップなりボン柄 (5色) 1組 420円

十二月に入り、水の冷たい季節になりました。山から引いている水は、冷たく、指先の感覚がなくなってきました。（夏は冷たく気持ちが良いので、両方うまくいきませぬね。）

寒くなると、私の楽しみが一つあります。私の好きな色に出会えることです。煮た皮を繊維の状態にほぐすビーターがけ、雪晒しの白い色、アカソで染めた薄赤い色、久保田のラベル色等々、いろんな色が見られます。中でも淡く優しい薄きみどり色、ビーター機の水の中で、フワフワ揺れている繊維の色は何とも言えない淡い色です。それは何かというと、自榨な皮をチリ拾いしたものです。この色がそのまま紙の色にされたら・・・といつも思います。（残念ながら乾燥すると少し色が薄れます。）私と紙流しする人の特権でしょうか。

この冬、幸せなことにすてに一回出会えました。それは、門出小学校の子供達が育てた楮です。子供達に木づちで叩かれ、水を張ったタライの中でほぐれていく。三年生の子供達が一生懸命楮ガラでかき混ぜました。来春、雪のとけるまでにこの色に何回出会えることでしょうか。（やなぎ）

私の好きな色



少し前のノートを見ると、この会の最初の集まりは去年の8月、当初は、互いが日頃感じていることの取り留めのないおしゃべり。あれが問題、ここをこうしたい、でも中々ねえ・・・。いくらでも出る。けれど何から手をつけたらいいやら、さっぱりわからない始末。でも今思えば、このおしゃべりも悪くなかった気がする。あれからいくつかのことは形になり、半年以上かかって「新商品」も発売できた。一方で実現どころかピクリとも動かないことの方がはるかに多い。けれど、闇雲に形にしては、ハイ次、ではなくて、形にしてみたらどうだったかまで含めて、またざっくばらんに話ができるような気長さ（執念深さ？）が持てたらいいと思う。

そんでもっていつか「そもそもうちは何がしたいんかね？」なんてことを工房のみなでおしゃべりできたらいいと思うのです。（さとう）



【あしがき】今年もあっという間に終わろうとしています。そして、毎年のことながら何か落ち着かないのです。皆様は今年、どんな年だったでしょうか？来年こそは「・・・しよう！」なんて考えている内に月日は過ぎて行きます。今年も1年間、お付き合いして頂きありがとうございました。（紀久子）